

令和6年度第1回 習志野市地域ケア推進会議

【開催日時・場所】

令和6年11月1日(金) 14:00~16:00

習志野市庁舎3階会議室

【出席者】

(委員) 50音順

大川委員、齊藤委員、杉山委員、立石委員、廣瀬委員、山下委員

(市)

小平健康福祉部長、奥井健康福祉部次長、相原健康福祉部主幹、岡澤健康福祉部主幹、
上本高齢者支援課包括推進係係長、中村同課主査、宮田同課主査補、中光同課主任主事

(高齢者相談センター)

谷津高齢者相談センター 小川センター長、笠井氏

秋津高齢者相談センター 橋本氏

津田沼・鷺沼高齢者相談センター 佐藤センター長、川村氏

屋敷高齢者相談センター 大多和センター長、高島氏

東習志野高齢者相談センター 脇本センター長、五島氏

【傍聴人数】

0 人

【次第】

会議開会前

1 交代委員の紹介

開会

1 会議録署名委員の指名

2 議事

(1) 「フレイル予防の取り組み」介護予防の視点

(2) 「街にベンチを設置する」取り組みについて

高齢者相談センターの調査結果から

先行的に取り組んでいる自治体等について

(3) 意見交換

3 その他(連絡事項)

閉会

【資料】

・資料1 高齢者相談センターの調査結果から<市内のベンチ等の設置の現状>

・資料2 豊島区「としまベンチプロジェクト」

- ・資料3 松戸市「歩き続けられる街を目指す
～公園での健康づくり活動&ベンチプロジェクト～」
- ・資料4 柏市「柏市つづくを、つなぐ。オレンジベンチ」
- ・資料5 千葉市「千葉市歩行空間のベンチ設置計画」
- ・資料6 習志野市「カーボン・オフセットから始まる『ゼロカーボンシティ習志野』」
- ・当日配布資料 本日の会議の流れ

【1 開会】

<山下会長>

本日、委員 11 名中 6 名が出席され、習志野市地域ケア推進会議設置要領、第三条第 1 項第 10 号による委員以外の関係者として、谷津高齢者相談センターより小川センター長、笠井氏（第2層生活支援コーディネーター）、秋津高齢者相談センターより橋本氏（第2層生活支援コーディネーター）、津田沼・鷺沼高齢者相談センターより佐藤センター長、川村氏（第2層生活支援コーディネーター）、屋敷高齢者相談センターより大多和センター長、高島氏（第2層生活支援コーディネーター）、東習志野高齢者相談センターより脇本センター長、五島氏（第2層生活支援コーディネーター）が出席。傍聴者は 0 名。

【2 会議録署名委員の指名】

公開前に内容について確認いただく会議録署名委員として、齊藤委員と廣瀬委員を指名。

【3 議事】

(1)「フレイル予防の取り組み」介護予防の視点

当日配布資料（本日の会議の流れ）について事務局より説明

(2)「街にベンチを設置する」取り組みについて

①高齢者相談センターの調査結果から<市内のベンチ等の設置の現状>

資料1について事務局より説明し、秋津圏域、津田沼・鷺沼圏域の第2層生活支援コーディネーターより補足説明。

<秋津高齢者相談センター 橋本>

高齢者の声として、外出をする際に休憩をする場がなく不安であるという声が多数ありました。ベンチが設置されている場所を把握していない人も多く、ベンチマップがあれば外出の意欲が高まり、フレイル予防が期待できるのではないか、また住民同士のコミュニケーションの場としても期待できると思います。

ユニークなベンチがある場所として挙げた谷津干潟では、多世代が身近に自然を感じながら散歩をしており、集いやすい場となっています。

しかし、公園によってはベンチが少なく、ベンチがあれば良いと感じる場所や、日差しや雨を防げるベンチがあればと感じました。

<津田沼・鷺沼高齢者相談センター 川村>

高齢者の声として、上り坂が急な場所やバス停に、日よけや背もたれのあるベンチが欲しいといった要望がありました。

自宅から外出先まで休憩する場所がなく、休んでいると通行人に心配され声をかけられることがあり恐縮してしまうという意見もありました。

圏域内では複数人が同時に座ることのできるベンチや東屋があり、そこで談笑して過ごしている姿があり、このようなベンチがあると良いと感じました。また、藤棚が屋根になっているベンチも多く、藤棚が外出を促す一つの手段にならないかと考えました。

高齢者相談センター内では、大学生に協力を仰ぎ、人力車を移動支援として取り入れてみてはどうかという意見もありました。

<山下会長>

ベンチの設置に関して、話題にあがったのは、いつごろで、どういう経緯だったのでしょうか。

また、フレイルの話題が広がりベンチの設置に集約されたのでしょうか。

<東習志野高齢者相談センター 五島>

令和 3 年に実施した第2層協議体（以下協議体）で、移動に困っている高齢者がいるという話から始まり、送迎サービスやベンチの設置を行うことで移動支援ができるのではないかという話になりました。協議体はその後数回実施しており、送迎サービスやベンチの設置は法的な問題や費用面等、様々な問題があることから、既存の社会資源を確認していく方向になりました。

令和6年10月に開催した協議体では、ベンチの設置場所を確認後、住民への周知方法としてマップ化を検討しています。

<杉山委員>

協議体で移動支援が話題になった際に、バス会社、タクシー会社等関係機関との調整が必要となり、現状で取り組める事を考えた結果、ベンチ設置の発想があがりました。

個人宅の前に使用していない椅子を日中出し、夕方にしまうようにすれば誰でも参加できると話は進みましたが、道路の占有などに課題があるということになりました。

まずは既存のベンチの設置場所を委員で確認及びマップ化し、それをどのように周知していくか、少しずつできることから始めてみるということになりました。

<大川委員>

家族がいても家族に迷惑をかけずに外出したい、ベンチが設置されているところに辿り着くまでが大変だという声があがっています。

新しくベンチを設置していく取り組みも大切だが、必要とする方が既存のベンチに座れないようなことがないように、必要な方が有効に使える活動も同時に必要ではないでしょうか。

道路に設置するのは安全性の課題もあるかもしれないが、市内には公共交通機関が不便な地域もあるので、少しでも解決の方向に進めばよいと思います。

<山下会長>

ベンチの設置については、東習志野圏域として話し合いをするのか、それとも全体で話し合いをしていくのか委員と確認をしたいと思います。

<高齢者支援課 岡澤>

コーディネーターが参加する会議の中で情報共有はしているが、他圏域でベンチの設置に特化した取り組みをしようという展開にはなっていません。

<山下会長>

発案してくれた東習志野高齢者相談センターを中心にしながら、習志野市全体のベンチの設置の流れを作るという議論をしていくことでよろしいでしょうか。

<東習志野高齢者相談センター 脇本>

困っている方と一緒に、市内全域でこの運動が広がっていければよいと思っています。

市が設置しているベンチには目印を作成する等、高齢者のみでなく子どもも巻き込んだ取り組みにし、一緒に管理していけると嬉しいです。

<山下会長>

ベンチの機能として、休憩や荷物の詰め替え等での利用、情報共有やコミュニティの場など、使い方は色々です。

個人宅前に設置するベンチの話もあったが、都市計画やまちづくりの側面から、習志野市がベンチ等を設置する時にどういう取り組みをした方が良いか議論をしていきたいと思います。

②先行的に取り組んでいる自治体等について

資料2から資料6まで事務局より説明

<齊藤委員>

周知されていないベンチを広めていくのが重要であり、病院や買い物、金融機関などの周りにもベンチがあることの案内が必要であると感じています。

公助の面でも、団体からの譲渡の受け入れや壊れたベンチは市が引き取る等があれば協力者が増えると思います。しかし、難しいと思うので、協議されると、話が一步進んでいくと思います。

<廣瀬委員>

目的地までの間にベンチがあると良い、必要なところにあって欲しいということについては、都市計画の部分になると思います。今後、設置の手段について話していくと思うがなかなか難しい案件であると感じています。

<大川委員>

各地域の取り組み状況を知ることができ、有意義でした。

<立石委員>

改めて圏域を確認した時に、目的の場所まで行くことが難しいという意見を聞いたり、東屋のようになっている場所では高齢者が集い、コミュニケーションが図れている場面もありました。

また安否確認の場にもなることが分かりました。

今後ベンチを設置していくとなると、管理方法については検討が必要だと感じています。

秋津圏域では独居の高齢者が多く、情報を知り得るとするのが難しいので、ベンチの設置場所について情報提供ができれば、少しずつ行動範囲を広げる目安になるのではないかと思います。

<杉山委員>

ベンチの設置について話をしていましたが、座れる歩行器を貸し出し、活用することも1つの方法ではないかと思います。

地元の子ども達に関わってもらい、愛着を持つベンチが設置できればみんなが大切にするベンチになっていくと考えます。

<津田沼・鷺沼高齢者相談センター 佐藤>

今回ベンチ設置の調査をして、圏域を振り返る良い機会になりました。

高齢者だけに限らず、世代の交流を意識しながら議論ができたのは非常に良かったです。

ベンチの設置について高齢者に限って考えていたが、様々な世代の問題としてとらえることを気づかされました。

<谷津高齢者相談センター 笠井>

地域住民に聞き取り調査を実施したところ、地域住民は情報をしっかり把握していることが分かりました。

<屋敷高齢者相談センター 大多和>

昔はバス停等に広告が入ったベンチが設置されていたが、現在は管理の面の問題もあるのか、少なくなっていると感じています。

千葉市の花見川団地では、団地内での買い物や郵便局までの移動支援として自転車でのボランティアサービスがあり、似たような形で活用ができないものかと感じています。

<山下会長>

マップの作成も良いと思いますが、マップを作る際に、動線を意識し意図的に作る方が良いです。

移動する中で立ち止まる必要があれば、そこに拠点を作る必要があります。都市整備の発想では無く、老人福祉計画や介護保険事業計画、地域福祉活動計画の一環として意図的に作るこ

で自然とコミュニケーションが生まれるのではと思います。

1 層・2 層コーディネーターだけの業務ではなく、ケアマネジャーや社会福祉士を含むセンター全職員の仕事だと感じています。

<立石委員>

圏域では高齢化が進み、多世代の交流の機会を意図的に作らないと、なかなかできません。地域で一緒に管理していこうということで巻き込んでいければと思います。

<大川委員>

坂道や高齢者が負担に感じているところに休めるベンチがあれば、生活の質が上向いてくれると思いました。

<廣瀬委員>

ベンチの設置については、すぐ解決できる問題ではないので、生活圏域や目的地を絞り、高齢者が多く外出する場所に特化し、その動線の中でベンチがない場合の策を考え、整理していくのはいかがでしょうかと思いました。

<齋藤委員>

道の途中に座ったり、フェンスに寄りかかっている高齢者を多く見ますが、道が狭くてベンチが設置できないなど、設置できるかできないかもきちんと確認が必要です。

<杉山委員>

高齢者は病院へ行く機会が多いので、病院に行く途中にベンチがあると良いと思います。しかし、病院への道のりは様々なので、ベンチの設置が可能な道を意図的に誘導することも一つだと思いました。

<山下会長>

ベンチの設置については、一つ一つ課題を解決し、地域の人とストーリー性を持って取り組むと良いです。地域をモデルにするのではなく、人をモデルにする方法もあります。

高齢者が支える側になり、座って地域を見守るベンチとなっても良い。今の現実を受け止めるコーディネートが大切です。

利用頻度が高い利用者が実質管理人のような役割で、ベンチに来た人を高齢者相談センターに繋いでくれる効果もあるかもしれません。

座れそうな石などがあったら、ベンチとして利用しても良いと思います。

コーディネート業務として、安心な空間を作ることと、どこのベンチに、誰がいつごろ、どのように集まって、そこで何をするのかを常に意識しておかないといけないです。

<杉山委員>

千葉県の地域福祉フォーラムの補助金を利用し、ベンチや歩行器を購入し、活用するのはどうかと思っています。

今までの協議体では、大人は参加していたが、子どもや学校の先生は午後3時半以降でない
と参加が難しいので、多世代が参加しやすい休日に協議体を開催する方法もあると思います。

<東習志野高齢者相談センター 協本>

ベンチの設置に協力的なコンビニエンスストアの店長が商店街に掛け合ってくれ、ベンチの設置場所を探して下さいましたが、車道や歩道、傾斜等で、置ける所が少ないと報告を受けました。ベンチの設置には色々な問題があり、個人宅前でのベンチの出し入れの協力者も得られなかったことから、今あるベンチを使ってマップを作成することになりました。

<山下会長>

本日の会議は資料もしっかり作られており、元気な人をつくり元気な人同士が繋がるといった取り組みをしていくという観点で、移動の問題をブレイクダウンしながらいろいろ考えられたのがよかったと思います。

コミュニティの場を、建物空間じゃないところに作っていかうという視点は、アフターコロナの意味もありますが、斎藤委員がおっしゃった「座っちゃっている」実態があるというのが良い着目点なので、実際に座っている人に、なぜ座っているのか話を聞いたり、座っている人の行き先を聞いてみるのも面白いと思います。そして、行き先である商店や病院等とのネットワークを作れば、その一角がそうしたコミュニティ空間になりうるのかもしれません。

高齢者の動線を長期的な課題として考えるという入口も本日の成果だと思いますので、それぞれの圏域では、「座れる空間」を作るといった発想を持ち、現実を受け止めながらコーディネートしていけば、元気な人同士が繋がるコミュニティの場として、ベンチやちょっと座れる場所が増えていくような気がします。

今日は移動の問題についていろいろな発想が広がりました。東京や各県でいくつかこの協議会の会長をしています、習志野市のオリジナリティと独自性が出てとても良かったと思います。

【3 その他(連絡事項)】

事務局より連絡事項。

来年度の開催日時等については、決定次第、委員の皆様にお知らせする。